

紹介

明治史講話

渡邊 幾治 郎著

「明治史の研究が現代と没交渉である」(序)といふ事、及び「天皇親政の時代に於て、明治天皇の御事蹟が歴史的に拜察されてゐない」(序)といふ事を遺憾として、著者が東京中央放送局に於ける放送講演を増補改作したものであるといふ本書の内容は次の如きものである。

序論・第一章王政復古・第二章明治天皇の親政・第三章立憲政治・第四章國勢發展・第五章朝鮮問題・第六章日清戦争・第七章日露戦争・第八章韓國の併合・第九章社會問題・第十章明治時代の指導精神・結論。従て本書は寧ろ明治政治史概説と稱すべきものである。

最近に於ける明治維新史研究の動向を見るに、幕末外交問題、嚴密マヌファクチャー問題、農民一揆革命性の問題等、歐米資本主義國との世界的聯關に於ける崩壞期封建社會の社會經濟史的分析から、明治期にあつては、祿制廢棄による士族の問題、土地問題を巡る封建性の問題、啓蒙的自由民權思想の問題等、主として新しき資本主義日本の建設期に於ける諸問題の究明に向つてある様

に思はれる。それは舊政治史的研究への批判に出發したものであつた。

本書は第九章に於て、幕末より現代に至る間の社會的諸問題に約五十頁を費してゐる以外、大體に於て王政復古令喚發より明治末年に至る間の政治的通史である。而も明治史は日本國民の尊王實現運動と、對外平等自主的外交への志向との過程であつて、それは明治大帝の英邁なる指導精神に統率せられるものであるとする著者の見解は、正に信念的人格主義的歴史の特色を示してゐる。

又本書に収録せられた史料は主として先人の研究書及び公刊せられたる文書記録に據つたものであるが、只此の領域に於ける通史的なるものゝ寥々たる現状を思ふ時、本書も亦明治史研究の上に一つの意味を持ち得るであらう。(吉川弘文館發行・菊判・三七三頁、定價二・五〇)(内藤)

富士谷御杖集 第一卷

國民精神文化研究所編

本書は、先に刊行された「先聖先賢聖道一轡義」に次ぎ、國民精神文化文獻第七として編纂されたものであつて、同研究所助手志田延義氏の努力によるものである。

富士谷御杖に就いては、從來江戸時代中期、寛政、享和、文化の頃、彼の本居宣長と大體時を同じくして京都に在つた異色ある歌學者、國學者として知られてゐたにも關らず、彼に關する文獻

は北邊隨筆、萬葉燈、並に古事記燈大旨の一部の外、殆んど公刊されるに至らなかつたものである。従つて本書御杖集第一巻は、左の如く、彼の古典研究の諸著を收録編纂したものであるが、之によつて今後は容易に彼の學問體系の研究に入り得る事となり、學者の利便を得る事多大である。

○古事記燈大旨(帝國圖書館藏) ○古事記燈卷一(七神三段神世七代第一(帝國圖書館藏) ○古事記燈三(帝國圖書館藏) ○古事記神典燈(帝國圖書館藏) ○古事記燈四(神生ノ段)(帝國圖書館藏) ○古事記燈大御寶之件(帝國圖書館藏) ○古事記言(七神三段)(倉野靈司氏藏) ○古事記燈神典(天地初發第一(京都大學國文學研究室藏) ○古事記燈卷之一(七神三段神世第一(加賀典三郎氏藏) ○古事記燈神典(源能基島、先言、改言)(上田萬年氏藏)

特に卷頭に掲げられた志田氏の御杖小傳及び本書解題は、彼の傳記及び著作の説明に約五〇頁を割き、文化五年に刊行された古事記燈大旨に就いては、諸本の異同ある部分を改稿本(京都大學本)、脱稿本(帝國圖書館本)、刊本(同上)と三段組にして内容の比較に便ならしめ、彼の學問の發展の經過を指示せんとしてある等、懇切を極めたものである。(東京國民精神文化研究所發行、菊版、洋裝、四二九頁、價參圓)(内藤)

## 日本城郭史

大類 仲共著  
鳥羽正 雄共著

日本城郭の研究に就いて、本年は二つの輝やかなしい成果を世に

送つてゐる。一は十月に刊行された古川重春氏著「日本城郭史」であり、一は續いて十一月に出版された、大類伸博士、鳥羽正雄氏共著の「日本城郭史」である。

古川氏は建築の實際に携る専門家である爲、その著はす「日本城郭史」は我國古代から最近世に至るまでの代表的城郭に對し、細微に互つて、その専門的立場から分析解明の筆を馳せてゐる所に特色がある。それに對して後者は、言ふまでもなく我國城郭史の組織的綜合的研究を開拓された大類博士と、永年史蹟の實際に就いて精密な調査を續けられつゝある鳥羽氏との協同著作である故に、極めて微に入り細を穿つた研究の集成であると同時に、全體を一貫して、城郭研究といふものを一般日本歴史の發展の裡に組み入れんと意圖した所に、その特色があると思はれる。

本書の構成は太古から明治維新までの間を、上世、中世、近世、最近世の四期に大別し、更に各期を第一、第二の二期に分ち、その各期に就いて、總説、戰爭と築城、築城の種類及び構造の三項目を設け、それが更に夥しく多數の小項目を含んであるといふ、組織的な整然さを有してゐる。こゝにそれらの内容を詳細に互つて紹介する事は出来ぬ。しかし大體に於いて、「總説」には城郭を生成した時代一般並びに軍事方面を概観し、「戰爭と築城」には各期に於いて築城を必要とせしめ或はそれを特徴附けた諸事象等を概説し、併せて廣く實際營まれた城郭を網羅して詳細に立論してゐる。「築城の種類及び構造」では各期に於けるその特徴を詳述してゐる。而かも至る所に挿入せられてゐる圖版は、微細な記述に